

令和4年度 園評価書

園番号

16

園名 静岡市立大谷こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園の取り組み	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (具体的な取組目標等)
自分が好き・みんなが好き	自分の思いを表現する	【夢中になる子】知・意欲 ・もっとやりたいと夢中になって遊び、自分らしく表現する	子どものやりたい気持ちに気づき、実践できる環境を作ることで、遊びを見つけ夢中になって遊ぶようになった	A	A	・相手の気持ちを考えていることができない時や子どもが言い過ぎてしまった時、すぐに言うのではなく、後で子どもが気づくようなアドバイスをしている。子どもの姿から、職員がサポートしていることがよくわかる。	「もっとやりたい」と遊びが続くために、子どもの思いを捉えて環境作り、環境の再構成をしていく
		【思いやりのある子】徳・心情 ・友達と一緒に過ごす中で相手の気持ちに気づく	保育者が思いをくみ取り、認めていくことで安心して思いを出すようになっていく	B	A	・職員が、子どもを肯定的に受け止めているから、子ども達の自己肯定感が高い。また、子ども同士が否定しないで認め合っている。	相手の気持ちに気づくことができない時もあるので、保育者は先取りしすぎず、子ども自ら気づけるような声掛けをしていく
		【心も身体も元気な子】体・態度 ・失敗を気にしないで、前向きに自分で考えて行動する	子ども達が考えながら遊べる環境を整えたことで、積極的に思いを出し合いながら自分たちで遊びを作り出すようになってきた	B	B	・子どもたちが大きくなってから、心の核の部分に認めてもらったことが残る。子どもを認めてもらえる園に通わせていてよかった	行動する前からあきらめしまう姿もあるので、心の動きに気づき個々にあったタイミングで関わっていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園の取り組み	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、保育者が願いをもって発達に合った環境を用意し成長を支えていく	月案作成時や公開保育の研修の時に幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を確認することで、日頃の保育のなかでも意識するようになった	B	B	【1 (3) 環境を通して行う教育及び保育の評価変更について】 ・幼児期に認められたという一つのきっかけから、自信が付き、伸びていった経験がある。こども園の時代は人生の土台を作る大切な時期。こども園の果たす役割は大きい。先生の子どもの見る目が子どもを伸ばしていく。温かいまなざしで、子どもひとりひとりを認めている対応がよい	月案検討時や園内研修時に保育の振り返りを行い、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の気持ちを温かく受け止め安心して園生活が出来るようにする	ひとりひとりの子どもや家庭状況に配慮しながら寄り添い、思いを受け止めていくことで安心して自分の思いを出すことができるように受け止めていった	A	A	【6研修について】 ・以前と比べて、幼児教育の質が上がっている。受け止める保育で、一人一人を丁寧にしている。先生も常に勉強をしていかなければならない。これからも研修を進めていってほしい	思いを受け止め安心して過ごすことができるように、子どもの目線に立って話を聞いていく。また、2号児保育を各保育室で行い、安心して過ごすことができるように状況に応じて職員配置をしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもをよく見て、温かく援助し子どもが主体的に遊ぶ環境を作る	子どものつぶやきや思いに気づき、子どもの興味に合わせた環境を考えた。園庭環境会議や職員の振り返りの中で全学年の視点で話し合いを行い、子どもの“やりたい”が叶う環境を作った	B	A	【8の家庭との連携、協力の評価変更について】 ・ドキュメンテーションや掲示物が、やった当日に出してあり、日常が分かりやすかった。また、子どもの目線に立ってコメントが入っている。一人一人をよく見て書いていることがわかる	遊び出しの環境が整っていないこともあるので、朝の環境を子どもと一緒に作っていく。また、子どもの遊びに合わせて再構成していく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	いろいろな状況を想定した避難訓練で「自分の命は自分で守る」の意識を持つ	実際の災害時を考え、状況に応じた避難方法や避難の約束を子ども達に伝えていくことで、落ち着いて対応する子が増えた。	B	B	【10地域との連携の評価変更について】 ・今年度しゃんしゃん交流で社協とのつながりが戻り、コロナ禍でも出来ることから交流を行っていくことができた。地域とのかかわりは十分工夫して行っている	言葉だけの説明ではなく、実際に行いながら丁寧に伝えていく。ヘルメットを素早くかぶれない子もいるので、訓練時以外もかぶる練習をしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗い、うがいを自分から進んで行えるよう視覚でも伝えていく	部屋に入る時など、声掛けを行うことで、習慣化するようにした。また、見届けることで、手洗いが子ども達に身につけてきた	B	B	【今後のこども園に期待すること】 ・しめ飾りづくり、わらじ、藁の手提げなど、地域の伝統として伝えていきたいことがあるが、年々出来る人が高齢化しており、伝統の技を受け継ぐ人がいない。また、なぜしめ飾りを飾るのか、しめ縄の形にどんな意味があるのかなど、語り継がれていない。PTAの方と一緒にしめ縄を作るなど、伝承してほしい	手洗い時の見届けを行いながらなぜ、手洗いが必要なのかを視覚的に伝えていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	職員の共通理解のもと、ひとりひとりに合った声掛けや、視覚支援などきめ細かなかわりをしていく	ケース会議で、個別の支援方法について話し合い、様々な手立てが出ることで、具体的な支援方法が明確になった。	A	A	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	支援担当ではケース会議を行うことができたが、担当以外には書面での報告になっていた。全職員で学び会えるような時間を作る
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園全体を見て声を掛け合い、情報共有を行い先を見て園運営を行っていく	クラスノートの活用、会議の伝達を確実に行うようにし、情報共有を図った。	B	B	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	職員同士の声の掛け合いが足りない時もあり、意見を伝える集団になるために、子どもの思いを大切に意見を伝え合っていく
6 研修	(1)研修体制の充実	振り返りシートや付箋を使ってどの職員も意見を出し合う。研修後まとめたものを張り出し共通理解を図る	公開保育や園庭環境会議などで、会議に参加できない職員も付箋に記入して意見を出すことで、様々な立場の職員から多くの意見が出るようになった	A	A	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	より活発な意見交換ができるよう、事前に研修内容や意見をまとめ会議を2部制にして行い、全職員が参加できるようにする
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの姿を思い浮かべながら、保育者の願いを持った環境を作る	子どもの姿を振り返り、遊びのつながりが出来るよう週案を作成し、素材や教材を用意し、さりげなく子どもの目に触れるようにしていった	B	B	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	子どもの遊びから育てている姿を捉え、今後育ってほしい姿を意識し、週案に組み込んでいく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だよりや、クラスだより、ドキュメンテーション等に写真を活用し、視覚的に園での取り組みや子どもの成長を伝える	お便りに写真を載せたり、ドキュメンテーションを作成し、子どもの活動への取り組みや育っている姿を伝えていった	B	A	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	「遊びと生活の中で育つ姿」をドキュメンテーションを使って保護者に伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の学校との連携の推進	小学校教育への円滑な接続に向け、年長児が小学校へ訪問する計画や公開保育に招待したり公開授業に参加したりして交流を行う	コロナ禍でも出来る交流を考え、小学校と連携をとり、校庭で遊ぶことや、学校内の写真を撮り年長児に小学校のイメージが持てるようにした。	B	A	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	小学校の接続を意識し、計画的に交流を行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	コロナ禍でもできる地域とのつながりを行い、地域の中で愛される園作りを行う	近隣の方に保育者が率先して挨拶を行ったり、回覧板で園の様子やにこにこ広場の日程を伝え、地域の方とのつながりを持つようにした。また、にこにこ広場やしゃんしゃん交流等コロナ禍でもできる交流を行った	B	A	【今後のこども園に期待すること】 ・以前は小学校で昔の遊びを紹介しに行っていたが、コロナで中断してしまっている。大谷の地域の方から話を聞くなど経験できる機会があると良い。現在大谷の歴史資料館を修復しているが、修復後に見に来るのではなく、途中の過程を見ることで、どんな修理をしているかなど伝えていってほしい	地域の方に大谷地区の事を教えていただくなど、今できる交流の仕方を工夫して、地域とのつながりを深めていく 地域の子育て世代の支援を行っていく